桂川における農業用水の現状について

１　農業用水の現状について　　別紙のとおり

２　日吉ダムにおける放流調整について

（１）平成１２年の放流調整経過について

＜内　容＞

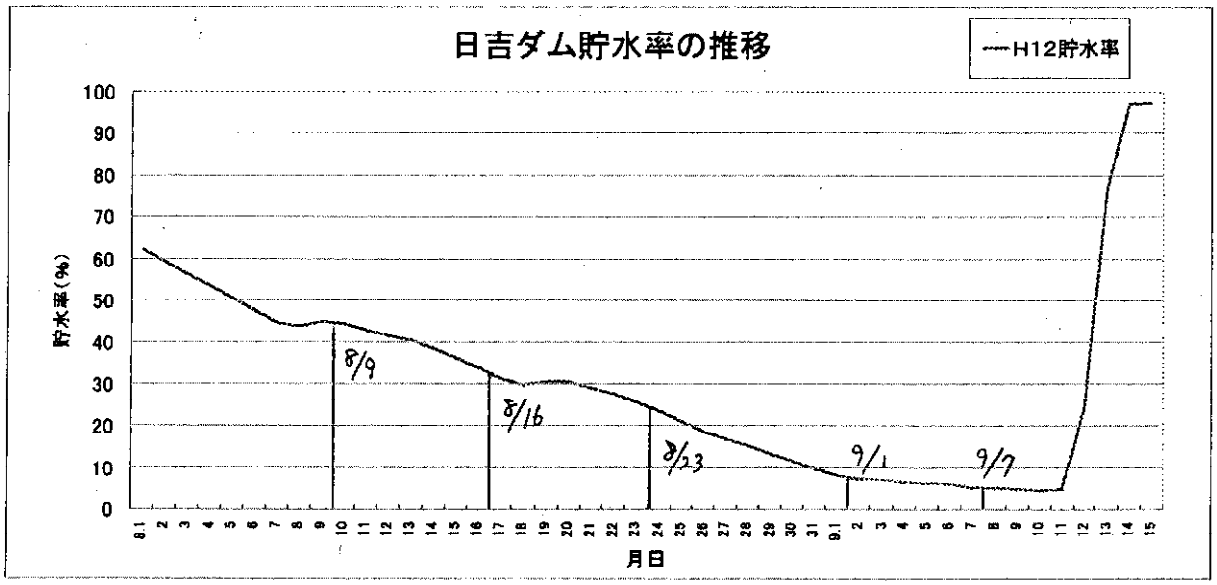
・夏場の少雨により日吉ダムの貯水率が低下したため、河川管理者の主催により日吉ダム渇水調整連絡会議を５回開催。

・会議では、関係利水者の合意の上、新町下地点の確保流量を段階的に削減。

会議開催日時	８／９（１回）	８／１６（２回）	８／２３（３回）	９／１（４回）	９／７（５回）
貯　水　率（%）	４４．９	３３．９	２５．６	８．０	５．４
新町下基準点流量(m3/s) 現行：６．４６m3／s	５	４	３	２	１．５
削減率（%）	２３%	３８%	５４%	６９%	７７%

＊最低貯水率　４．６%（９／１０）

＜日吉ダム貯水率の推移（平成１２年８月１日～９月１５日）＞



（２）平成１３年の対応について

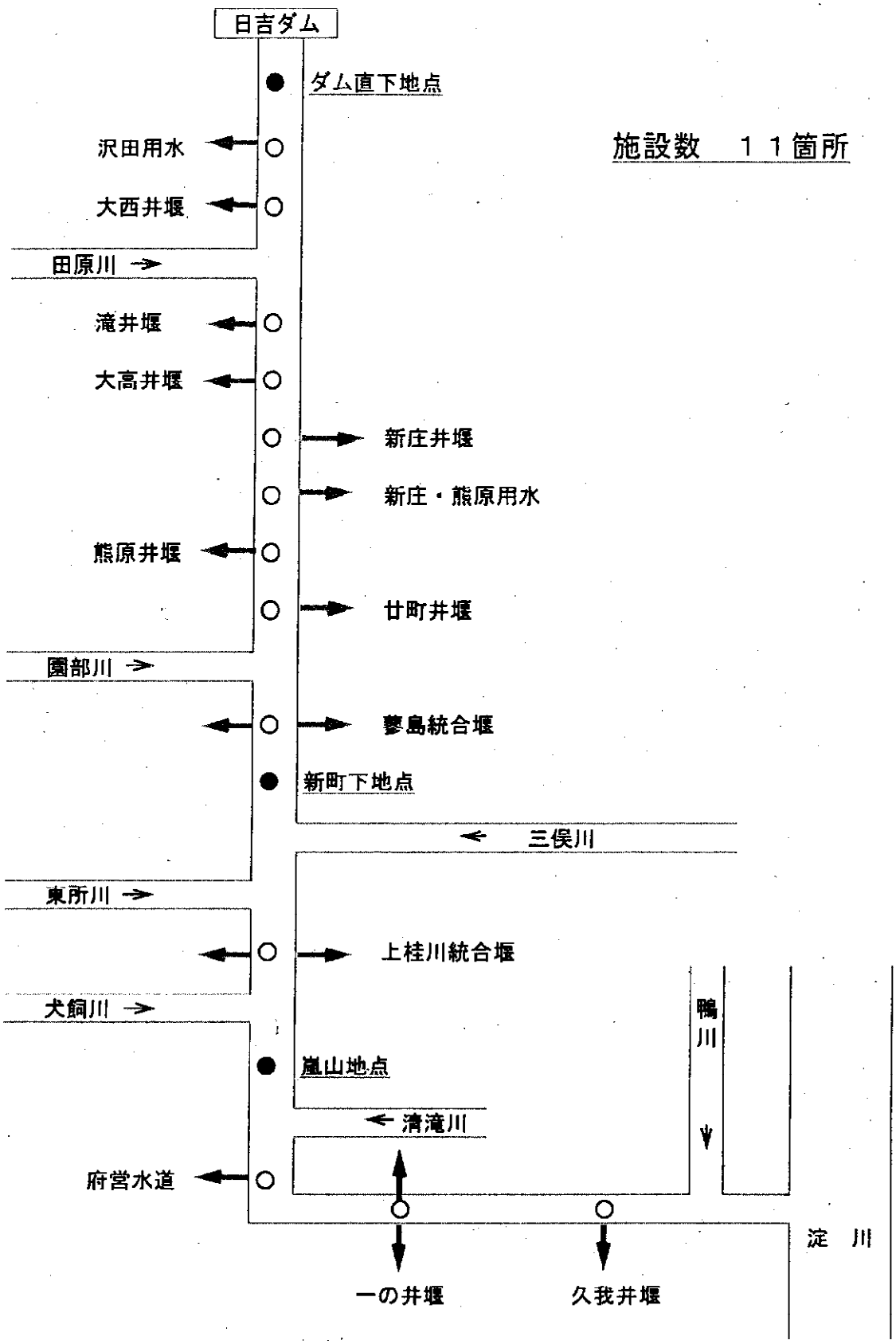
○日　時：平成１３年４月１８日（水）

○内　容：ダムの温存策として、関係利水者の合意により、ダム直下と嵐山の２地点の確保流量と、新町下地点の確保流量（５m3／ｓ）を目標にした運用でダムの放流を調整。

確保流量	現　行	運　用
ダム直下地点	２m3／ｓ	変更なし
新町下地点	６．４６m3／ｓ	５m3／ｓ
嵐山地点	８．８６m3／ｓ	変更なし

＊確保流量はかんがい期間の流量

桂川の農業用取水施設

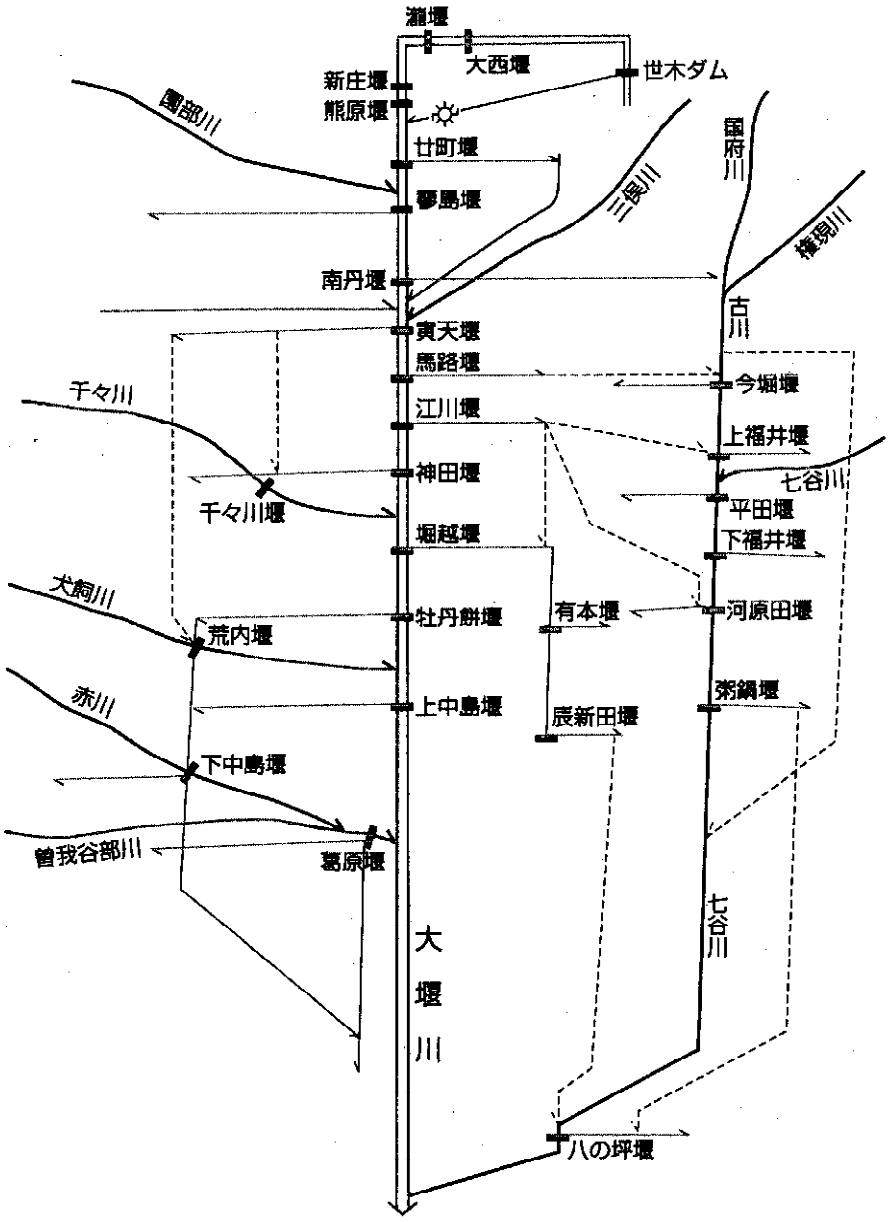

日吉ダム
ダム直下地点
施設数　１１箇所
沢田用水
大西井堰
田原川
滝井堰
大高井堰
新庄井堰
新庄・熊原用水
熊原井堰
廿町井堰
園部川
蓼島統合堰
新町下地点
三俣川
東所川
上桂川統合堰
犬飼川
鴨川
嵐山地点
清滝川
府営水道
淀　川
一の井堰
久我井堰

昭和34年頃の亀岡盆地七井堰の概要

名称	建造年	形式の移り変わり	取入口	井堰の構造					取水水門の大きさ構造	灌漑面積 町	関連堰
				堰高	堰長	土砂吐	魚道	筏道			
寅天堰	室町時代（聴取）	粗朶堰を昭和年代に木工沈床堰に改築	右	m 1.20	m 170	−	−	m 幅 9.0 長 20	高1.5 幅1.5 木扉 スルースゲート2門	139.6	
馬路堰	徳川時代（聴取）	〃	左	1.40	137	幅 1.5 長 6.5 コンクリート三方張	−	幅 8.0 長 60	高1.5 幅1.5 木扉 スルースゲート2門	120.7	今堀堰
江川堰	〃	〃	左	1.20	101	−	−	幅 5.0 長 10.5	高1.3 幅1.6 スルースゲート1門	209.7	上福井、下福井、平田、河原田、粥鍋、八の坪各堰
神田堰	〃	〃	右	1.50	128	−	−	幅 7.0 長 22.0	第一樋門 幅850mm con c,P角落 第二樋門 幅1.4 高1.5 スルースゲート1門	49.5	千々川堰
堀越堰	〃	〃	左	1.40	111	−	−	幅 6.0 長 17.0	高1.1 幅2.4 スルースゲート1門	82.0	有本、辰新田堰
牡丹餅堰	〃	〃	右	1.60	191	−	−	幅 9.0 長 12.0	径1800mm con c,P角落	35.7	荒内堰
上中島堰	〃	〃	右	2.20	224	−	−	幅 6.0 長 16.0	高1.2 幅1.5 木製落戸	123.1	下中島、葛原堰
計										760.3	

（注）引用：昭和34年度災害復旧事業上桂川災害復旧事業計画書（京都府）

昭和34年頃の井堰と用水関係模式図



第三　大堰川の井堰変せん

水田耕作には、灌漑用水が不可欠で、水をめぐって多くの苦難の跡をみることができる。亀岡盆地に広がる水田地帯の灌漑用水源は、湧水、雨水などの天水やため池も利用されているが、最も広く使われてきたのは大堰川の水である。

古くから、大堰川筋にはその名が示すように多くの井堰があり、大堰川で最初にできた井堰は五世紀末に秦氏による「葛野大堰」であるが、それ以降では『船井郡誌』によると川辺村（現園部町）越方にある「新庄堰」で文治四（一一八八）年の鎌倉時代初期の創設となっている。

江戸時代に描かれたという『丹波国世木ヨリ山城国嵯峨マデ大井川筋絵図』には、亀岡から園部の大堰川筋には十六か所（保津には二か所あるが一か所とした）が、また『大堰川・園部川・田原川筋井堰沿革誌』（明治三十五年十月編）によれば、大堰川筋として、最上流の草原堰（世木）からはじまり全部で二十一か所が書かれている。

各井堰は、それぞれの地区の水田を潤していた。各村では、水を確保するための重要な施設として、堰普請や番水などを行い、また上流・下流の地理的関係等から様々な水利に関する慣行が生まれた。

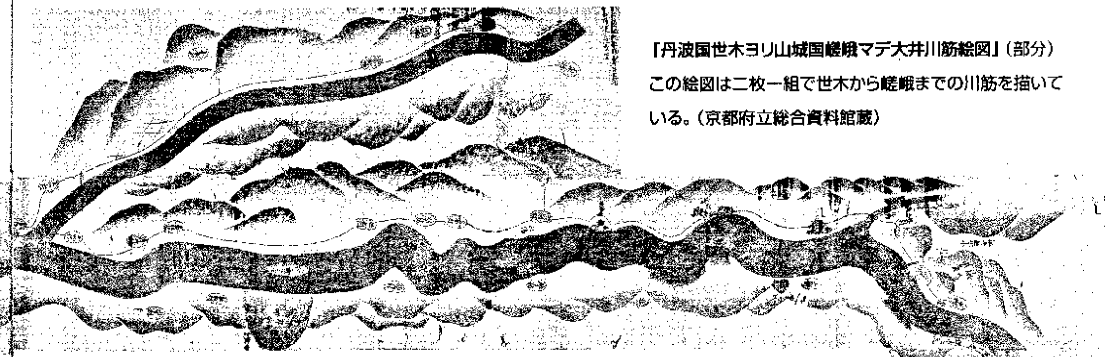
その後、堰の老朽化に伴い構築技術の向上と相まって統廃合が繰り返され、現在八か所となっている。

※1　「井堰、堰」とは、川の水を水田などに引くため、流れを堰き止めるための施設である（二十二ページ参照）。

※2　井堰か所数は、現在の日吉ダム湖内の世木ダムから保津峡までの間の数である。

※3　「普請」とは、治水、用水開削、新田開発、施設の維持補修などを行う工事のこと。

※4　「番水」とは、水利慣行による用水の分配に関する方法の一つである。



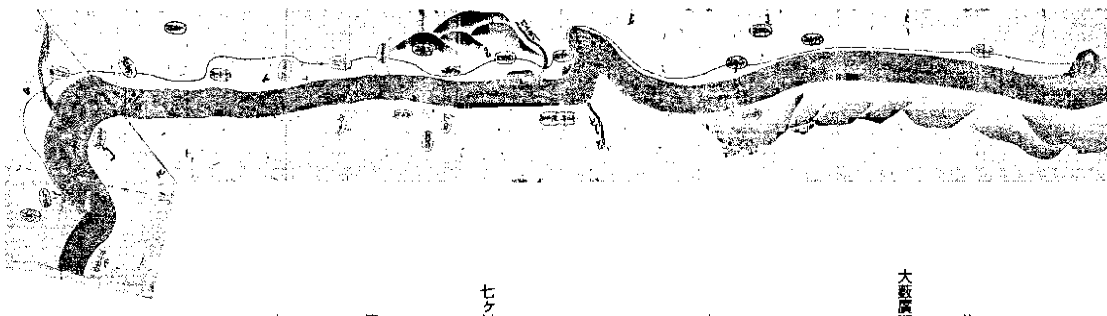
『丹波国世木ヨリ山城国嵯峨マデ大井川筋絵図』（部分）
この絵図は二枚一組で世木から嵯峨までの川筋を描いている。（京都府立総合資料館蔵）

殿田村　越方井関　高屋井関　新庄井関　熊原井関　雀部井関　弐拾町井関

大堰川井堰一覧

大井川筋絵図	大堰川・園部川・田原川筋井堰沿革誌(1903)			南桑田郡誌(1924)		関係	船井郡誌(1915)					その後の経緯	現在		
名称	名称	位置	創設年月	名称	所在地		名称	所在地	幅×長さ(間)	高低差(尺)	構築年月(西暦)		名称	位置	設置・規模改修年
	畑田堰	世木村	正保2年8月	上世木井堰	上世木村	=	畑田堰	天若・上世木	6.5×27	3.4	正保2(1645)				
	草原堰	世木村	寛延元年9月				草原堰	天若・草原	3.0×26	5.0	寛延1(1748)				
	宮島堰	世木村	宝永7年3月				宮島堰	天若・上世木	10×35	14.6	宝永7(1710)				
	澤田堰	世木村	慶安2年				澤田堰	天若・澤田	8×33	7.3	慶安2(1649)				
				世木宮村井堰	本宮村	=	↑郡行流堰								
				(橋矢堰	世林・橋矢)	=	↑ 〃								
	大西堰	世木村	安永元年5月				大西堰	殿田・前田	3×95	42.1	安永1(1772)		大西頭首工	日吉町	昭和48年
	溜堰	川辺村	不詳				溜堰	船岡・溜堰	4×43	13.1	不詳		溜新首工	園部町	昭和34年
越方堰	新庄堰	川辺村	建暦以前(1211頃)	了井堰	越方村	=	新庄堰	越方・才ノ下	3×110	207.6	文治4(1188)		大高原首工	園部町	昭和34年
													新庄堰	八木町	昭和43年
高屋堰	高屋堰	川辺村	元和年間	高屋井堰	高屋村	=	高屋(大尾)堰	上屋(船岡東ノ本)	4×60	24.0	元和(1619〜1624)				
新庄堰								高屋(船岡明石)	3×50				熊原頭首工	園部町	昭和42年
	貳拾町堰	新庄村	不詳	千町井堰	船枝村		二十町堰	船枝・出口	3×72	84.3					
熊原堰	熊原堰	川辺村	慶安3年4月	熊原井堰	熊原村	=	熊原堰	熊原・宮ノ前	7×113	51.0			竹町堰	八木町	昭和27年
雀部堰															
弐拾町堰				神田井堰	雀部村										
殿田堰・八木	夢堰	吉富村	文安3年5月	八町井堰	山室村		夢堰	八木島・片原	2×110	97.0		= 統合	夢線改修工	八木町	昭和44年
八木嶋堰				八木島井堰	八木島村							↑			
	島堰	吉富村	不詳				島堰	八木島・新町	2×110	42.0		廃止堰 ↑			
				構木井堰	大薮村										
上梶原堰	上梶原堰	富本村	不詳	梶原井堰	西田村	=	上梶原堰	北広瀬・下原	2×100	52.3	徳川時代				
梶原堰	下梶原堰	富本村	不詳	下梶原井堰	観音寺村	=	下梶原堰	西田・井尻	2×100	33.8	徳川時代				
貴天堰	貴天堰	千代川村	不詳	貴天井堰	川関村							統合	上梶川統合堰	亀岡市	昭和38年
馬路堰	下堰	富本村	不詳	馬路井堰	馬路村							↑			
河原尻堰	神田堰	千代川村	不詳	河原尻井堰	河原尻村							↑			
大井村堰	牡丹新堰	大井村	不詳	澗田井堰	大井村							↑			
並川堰	江川堰	馬路村	不詳	勝林馬井堰	勝林馬村							↑			
	堀越堰	河原林村	不詳	宇津根井堰	宇津根村							↑			
保津堰	中嶋堰	亀岡町	不詳	保津井堰	保津村							↑			
16箇所	21箇所			19箇所			14箇所						8箇所		

引用:浅田悦次郎著:『大堰川・園部川・田原川筋井堰沿革誌』明治35年10月編（亀岡市　八木玄浩氏蔵）、『日吉町誌上巻』昭和62年3月　日吉町

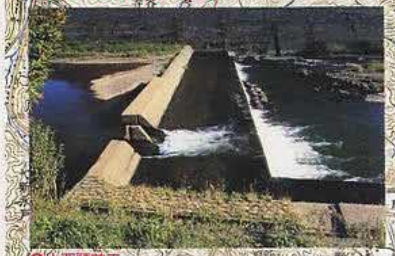


八木嶋井関　大薮廣瀬八木井関　上梶原井関　梶原井関　七ケ村井組井関　馬路井関　河原尻井関　大井村井関　並河井関　保津井関　宇津根村

訪ねてみよう、歩いてみよう…新たな発見

上桂川統合堰の受益地の状況

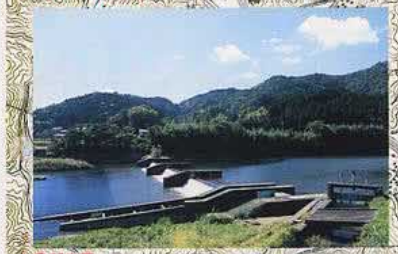
四丹波の現在の井堰



❶大西頭首工

❷灌頭首工

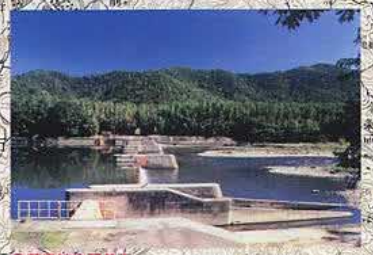
❸大高頭首工（土堰）



❹新庄堰

❺熊原頭首工

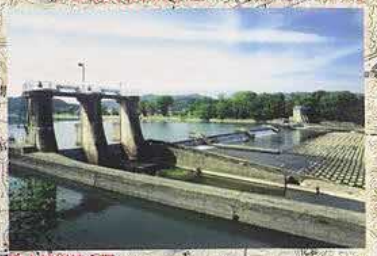
❻甘町堰



❼菱鳥統合頭首工

Ⓕ追分町（コスモス）

Ⓒ千代川町（彼岸花）



Ⓐ上桂川統合堰

Ⓑ馬路町（幹線水路）

Ⓒ馬路町（水路：はんの木）

Ⓓ河原林町（麦秋）

Ⓔ河原林町（水田）

このパンフレットに掲載している地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号　平12近複、第77号）